

Lesson 12. コウホート研究

§ B. 既往コウホート研究

コウホート研究の種類

- コウホート研究 (通常の)
 - Concurrent (同時発生) Cohort Study
 - 前向きコウホート研究
- 既往コウホート研究
 - Historical Cohort Study
 - 後向きコウホート研究

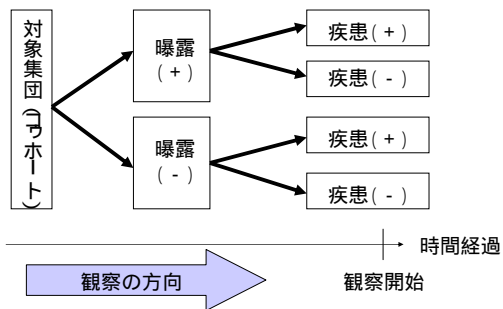
既往コウホート研究の特徴

- 長い潜伏期の疾患でも研究可能
- (その他は通常のコウホート研究と同じ)
- 研究の疑問は「何が起こっていたのか」

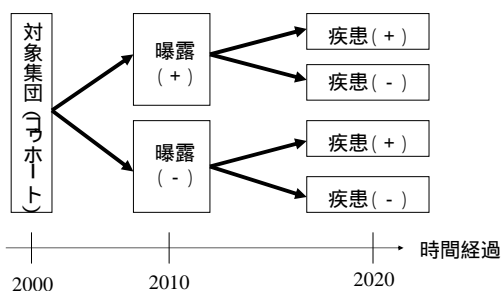
既往コウホート研究の手順

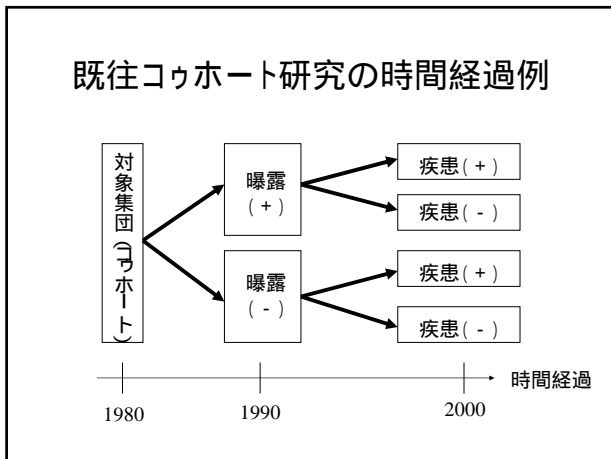
1. 研究対象集団(またはまとまった集団の記録)を確定する。(まず最初に全体枠を決定)
2. 疾患などの有無を調べる。
3. 過去の観察や測定により曝露群(要因保有群)と非曝露群を同定する。
4. 曝露と疾患(結果)の関係を分析する。

既往コウホート研究のデザイン



コウホート研究の時間経過例





- ### コウホート研究で起こりうるバイアス
- 選択バイアス Selection Bias
 - 情報バイアス Information Bias
 - 誤分類バイアス Misclassification Bias

 - バイアスについては別のレッスンで

- ### コウホート研究がうまくいく場合は？
- ある曝露要因と疾患に関連があるというよい根拠がある時
 - 研究対象集団の自然現象(つまり、脱落。Attritionという)が最小限に留まる時
 - 要因曝露はまれであるが曝露群の疾患発生率が高い時
 - 要因曝露と疾患発生の期間が短い時

コウホート研究がうまくいく場合は？
(続き)

- 十分な資金が利用可能である時
- 研究者の寿命が長い時
